

中南米日系農業者連携交流委託事業（新規）

【50(0)百万円】

対策のポイント

中南米4カ国の日系農業者団体の連携強化や日系農業関係者のリーダー育成のための技術交流を重点的に支援することにより、日本との間で構築されてきた農業交流関係の維持・発展を図ります。

<背景/課題>

- ・ 日本と中南米諸国との間には、日系農業者の移住の歴史を通じて、農業交流関係が構築されており、今後とも維持・発展を図っていく必要がある。
- ・ 中南米諸国では、戦後移住した多くの日系農業者の世代交代が進み、地域農業をリードする優秀な二世・三世の経営者も生まれており、日本の農業・食料産業分野における先進的な環境管理技術や6次産業化の取組などへの関心が高まっている。

政策目標

- 日本と中南米4カ国との間の農業交流関係の維持・発展を牽引することが期待される人材の確保。
- 研修修了者が5年以内に日系農業関係者のリーダーになる割合9割以上

<主な内容>

1. 日系農業者団体の連携強化

中南米4カ国（ブラジル、パラグアイ、ボリビア及びアルゼンチン）の日系農業者団体による交流を促進し、各国の日系農業者（約20万人）や日系農業者団体が抱える課題の解決に向けた情報の交換・共有を図り、これらの組織間の連携を強化。

2. 日系農業関係者の交流・技術研修の実施

① 日系農業関係者の交流研修の実施

中南米4カ国の日系農業関係者を対象として、リーダーの育成を図るための日本における技術研修や交流を日本において実施。

② 日系農業関係者の現地技術研修

中南米4カ国の日系農業関係者を対象とする技術研修を現地において実施。

事業実施主体：民間団体等

（事業実施期間：平成25年度～平成29年度）

[お問い合わせ先：国際部国際協力課（03-3592-0313（直））]

中南米日系農業者連携交流委託事業

事業実施期間：平成25年度～平成29年度(5年間)

背景・現状

- 日本は、戦後、ブラジルを中心とする海外農業移住を国策として推進。
- 日系社会の世代交代などの環境変化により、日系の農業者や農協組織の連帯感が低下し、メジャー以外の新ビジネスの機会喪失を懸念。
- 日本の農業・食料産業分野における先進的な安全管理技術に関心。
- 干ばつなどの異常気象やエネルギー安全保障等を背景とするバイオ燃料の需要急増による国際穀物価格高騰で、世界の飢餓・栄養不足人口増加、我が国の食料安定供給の危機。
- 我が国は、世界の食料安全保障の確立に向けて、海外農業投資を促進。

日・中南米農業関係者の連携強化の推進

現地

1. 日系農業者団体の連携強化
 - 中南米日系農協等間連絡会議
2. 日系農業関係者の技術研修
 - 農業技術向上研修
 - 日本人専門家の短期派遣研修

日本

1. 日本・中南米の農業ビジネスに関する交流
 - 日系農業者団体幹部との交流
 - 日本・中南米間の農業ビジネスに関する交流セミナー
※中南米との農業ビジネス連携に関心がある日本食品業者等との意見交換会
2. 日系農業関係者の交流研修
 - 中核リーダー育成交流研修
 - 農産物品質・安全管理交流研修
 - 女性部の地域活性化交流研修

中南米日系農業関係者間の連携強化
日本・中南米農業関係者の交流発展